

『人と繋がることのよさ』

吉田中学校 渡邊 智成

私はこの派遣事業を通し、人と繋がることの良さを改めて実感することになった。

私は今、中学3年生である。5月の終わり私はこんなことを考えていた、「最大行事の修学旅行が終わり、あとは学園祭とかその他諸々の行事して、卒業するのだろう」と。そんな中、朝の会にて、担任の先生からこの事業の校内募集の話聞きとてもワクワクした。しかし、コロナにより閉ざされていた「人との繋がり」それを上手くできるのかとても不安だった。おまけに、私は英語も得意ではない、一度は事業への応募を諦めかけた。それでも、周りの応援があり、この事業に応募することにした。

初めて今回一緒に行ったみんなと会ったのは6月の半ば最初は知らない人だらけで、やはり、上手くいくのか不安があった。それでも、研修会を重ねるごとに、お互いの学校の話をしたり、他愛のない話なんかもして、少しずつ交流を深めていき、あったはずの不安はいつの間にか消え失せていました。コロナのより閉ざされていた「人との繋がり」はまず、私の考え方を覚えてくれました。同じ中学3年生と交流するだけでも、学校による文化違いや考え方の違いなどを知り、自分の考え方の甘さを知り、受験生としてとても良い刺激を受けました。

次にコロラドでのことです。ホストファミリーは私たちを心から歓迎してくれました。また、登山やピクニックボール、アメリカンフードなど、ほかにもたくさんを経験させてくれました。また、家族のことや、コロラドのこと、食文化などたくさんを教えてくださいました。教えてくださいました。

今回この派遣事業に参加して、コロラドで英語を積極的に使うことができたことも、今回の成果ではありますが、私にとっての1番の成果はたくさんの人と関わり、たくさん交流をする中で、身近なことから、遠く離れたアメリカ・コロラドのことを学び、コロナ前のような、人と繋がることの良さを改めて知れたことが、成果だと思います。

最後に、今はコロナ禍であり、人と繋がるのがどうしても制限されてしまいます。そんななかでも私は、今回たくさんの人と繋がって、「人と繋がるってやっぱりいいことだな」と思ったから、1人でも多くの人と繋がっていけるように、今回の派遣事業で学んだことを生かしていきたいと思います。